

クロマツの葉の紋、国包建具の唐草模様

# 地元ゆかりの意匠導入

加古川プラザホテルの新カーペット



JR加古川駅南の加古川プラザホテルで、宴会場のフロアカーペットが地元ゆかりのデザインに一新された。広々としたロビーには市木「クロマツ」の葉の丸紋、大宴会場には伝統工芸の「国包建具」

をイメージさせる格子戸状に仕切った唐草模様が目元に広がっている。カーペットの張り替えは約10年ぶり、以前はシンプルな紺地などが中心だった。懇親会などの会場として地

元の利用客が多いため、今回は親しみやすい身近なデザインを採用。2階にあるロビーと大・中・小の各宴会場を合わせた約1550平方メートルで、今月上旬に4日間かけて作業した。

「国包建具」の格子戸をイメージさせるデザインを採用したカーペット。いずれも加古川市加古川町溝之口

国包建具は加古川舟運の船着き場として栄えた国包地区で約190年の歴史を誇り、大宴会場のモチーフにした。クロマツの丸紋は吹き抜ける風をあしらった曲線とともにロビーに配し、郷土の魅力を発信している。

ほかには志方の山々に咲く「ささゆり」も取り入れており、勝浦司総支配人(59)は「このホテルで『加古川』を感じ、より親しみを持ってもらえたらうれしい」と話している。

(井上太郎)

神戸新聞  
2015年  
8月25日